

ならないし、必ず「標本の裏付けが必要で、目撃記録のようなあいまいなものはつとめて避けるべきである。

IRATSUME 3:6-7(1979)

但馬地方の昆虫相に関する文献資料 (補遺1)

高橋 匡

手もちの文献を整理しているうちに 2~3 の資料がみつかったので報告しておく。

1. 山本茂富： 妙見山資料館奉納。妙見山昆虫採集目録。(1962).
蜻蛉目3科7種、半翅目セミ科4種、鱗翅目が亜目8科13種、チョウ亜目8科36種、膜翅目6科16種、鞘翅目20科73種が記載されている。
2. 妙見山資料館： 妙見山生物資料館報(第2号)。(1963).
昆虫として、蜻蛉目2科5種、鱗翅目が亜目10科39種、チョウ亜目6科14種、鞘翅目6科20種が記載されているが、前掲の資料と重複した種がある。
3. 妙見山資料館： 妙見山資料館報(第3号)。(1964).
昆虫として、蜻蛉目6科16種、脈翅目3科5種、半翅目4科11種、鱗翅目が亜目18科74種、チョウ亜目8科46種、膜翅目8科39種、鞘翅目23科86種が記載されている。
4. 豊岡高等学校生物部： 氷の山系植物・昆虫目録。(1964).
副題として「養父郡関宮町、大屋町を中心として」となっているが、内容を見ると取にあげた「NATURA」や「兵庫生物」の資料をひき写したもののらしい。「但馬山岳博物館資料」となっているところから、そのような施設建設の陳情に用いたものと思われる。従って資料が重複するので省略する。
5. 辻 啓介： 兵庫県のカミキリ。月刊むし10号。(1972).
兵庫県下のカミキリムシ科の分布についての概説であるが、その中に「氷

ノ山」、「扇ノ山」の項があり、それぞれその環境とカミキリ相の概略とともに、注目すべき種の解説をのせている。

6. 兵庫県自然保護協会調査資料第1集： 扇ノ山周辺の動物(I). (1972).

この報告の中には、「奥谷禎一、扇ノ山および霧ヶ滝の昆虫相」、「辻啓介、但馬扇ノ山の蝶類目録」、「奥谷禎一、畑ヶ平高原の広勝蛭目」、「辻啓介・岸田剛二、但馬扇ノ山の甲虫目録」が含まれているが、手もとには最後の報告の別刷だけがある。67科694種が記載されている。広勝蛭目は66種の記載があるようである。

7. 遠藤知二： 妙見・蘇武・三川および神鍋周辺の蝶類. 兵庫県自然保護協会但馬支部研究紀要. Vol. 2 (3). (1976).

セセリ干ヨウ科6種、アゲハ干ヨウ科10種、シロ干ヨウ科6種、シジミ干ヨウ科16種、ウラギンシジミ科1種、マダラ干ヨウ科1種、テング干ヨウ科1種、タテハ干ヨウ科21種、ジャノメ干ヨウ科7種、計69種が記載されている。

なお、高橋寿郎氏の「兵庫県産甲虫類に関する文献目録」(1975)の中にあげられている文献で今まで報告しなかったものを拾ってみる。もち論これらの資料のほとんどは手もとにない。

1. 勝屋 潤： 生野糞虫採集記. MDK NEWS, 23(1), (1971).
2. 北村運明： 兵庫県出石郡神美村で採集した蝶とコガネムシ. 昆虫界 V(43), (1937).
3. 森田真澄： 生野でラミーカミキリを採集. きばりはむし, 2(1), (1973).
4. 日本自然保護協会： 氷ノ山・後山・那岐山国定公園候補地学術調査報告. (1967).
5. 大倉幸彦： 三川山麓におけるヨコヤマトカミキリの記録. きばりはむし, 3(1), (1974).
6. 大平広士・三木岳春： 兵庫県氷ノ山カミキリ3種の採集例. 昆虫と自然, 9(5), (1974).
7. 辻 啓介： 兵庫県北部でラミーカミキリ. 月刊むし, 1(7), (1971).
8. 辻 啓介： 氷ノ山の甲虫数種について. きばりはむし, 1(2/1) (1972).
9. 辻 啓介・畑中 照： クビアカドウガネハナカミキリ兵庫県大屋町明延に産す. 昆虫と自然, V(4), (1970).